立山町史

下巻

立山町

刊行のことば

わたくしたちの祖先は、この立山町の自然を舞台に、あるときはその猛威を怖れ、それを克服し、あるときはこの自然をたたえて、今日の立山町の姿を築き上げてきました。

『立山町史　上巻』が昭和五十二年十月に発行され、ついで時あたかも町制三十周年の佳い年に待望の『下巻』が上梓される運びになりました。一町民といたしましても限りない喜びであります。

わたくしたちの祖先が高原野をはじめ諸原野を拓いてきた労苦や安政の大水害などに如何に対処してきたかなど、この下巻には詳しく述べていますが、そのあるいた道を回顧することは、現在に生きる者にとって誠に意義深いものがあると思います。

本書の編纂にあたって監修の労を煩わした、本町出身の富山大学名誉教授・文学博士高瀬重雄先生はじめ、執筆・編纂委員各位ならびに資料の提出など直接・間接のご協力を賜わった関係各位に対して、心から感謝の意を表します。

おわりになりましたが、町民各位が先人の生きた時代を偲び、たゆみない前進をされることを念願して、刊行の挨拶といたします。

昭和五十八年十二月

立山町長　富樫清二

監修者のことば

立山町史の『下巻』は、このほど編集を終えて発刊の運びになりました。まことにご同慶の至りに存じます。

この本の編集に関して、最初の会合がもたれましたのは、昭和五十三年の四月でありましたから、発刊の今日までの間に、約五か年の歳月を要したことになります。思い起こせばこの五か年の間、私ども編纂関係者一同、立山町のご当局はもちろん、各方面の方々の並々ならぬ激励やご協力を得ました。とくに編纂事業の初段階ともいうべき、資料調査に当たり、町内各地の神社や寺院や旧家を歴訪しました折には、地元町民の皆様の心あたたまるご支援をいただきました。また資料の調査と整理を終えて、分担執筆に入った段階では、執筆者各位の昼夜を分かたぬご尽力を賜わりました。執筆原稿がようやく集まって、編集段階に入りましてからは、編纂主任を中心とする方々の、辛抱強いご努力がありました。そして最後の監修段階では、およばずながら私自身、一通り拝見して意見を付し、再度編集主任の方へまわして、訂正や整合を願うという手続きをとりました。要するに、編纂事業の各段階で、多くの方々のご協力を得て、はじめてこの一冊ができ上った次第であります。いま発刊のときに当たり、私は、これら多くの方々のご支援とご協力に対し、深甚なる感謝の意を表さずにいられないのであります。

本書をご覧下さればおわかりいただけるように、『下巻』の内容は、『上巻』のそれと趣きを異にしております。編集の上でも、『上巻』とはやや違った工夫がこらされております。『上巻』は、立山町の地形・地質の記述から出発して、原始・古代から中世末期に至る歴史の叙述に当てられました。なかでも、きわ立った特色のある立山信仰の展開過程が、重要事項のひとつとして詳述されております。これに対して『下巻』は、近世から近代を経て現代におよぶ、町や村の生活の推移をあとづけようとしております。しかしそれは、地域の政治・経済・社会の進展に深くかかわりをもつ問題であります。とくに立山町の村や町の成立事情、農・工・商などの産業の発展、教育や文化の伸展、町村合併の経過など、町民のみなさまにとっては、極めて身近に感じられる問題ばかりであります。そしてとくに、常願寺川をはじめ南北に貫流する河川の洪水との戦い、つまり水との戦いが、近世・近代を通じての重要事項のひとつとしてとりあげられております。このようにして、『下巻』の記述内容は、極めて多方面におよび、また多岐にわたっております。そこで『上巻』の場合とちがって、章と節との別を明確にし、そのなかで項目立てを行うという編集方法がとられております。

しかし結果からみていろいろな角度からのご批評は、もとよりあり得る筈であります。たとえば、いずれの章節においても、過不足のない適切な表現が与えられているか、また章節の立て方に均衡があるかというような点になると、さまざまなご批評があろうかと思われます。もしそうした点でお気づきがありましたならば、ご遠慮なく事務室までお申し出をいただけば仕合わせに存じます。町民各位の善意のご注意を、謙虚にうけとめて改善が加えられてこそ、よりよき町史にみがきあげられる期待が生まれるからであります。

さて私事にわたって恐縮ですが、私は一昨日も、紅葉のなかの立山風土記の丘を一巡する機会を得ました。姥堂あとの土壇に立って、遥か白雪の立山の峰を仰ぎながら、私の胸中を去来したのは、立山町の未来のことに関係することどもでした。

現代の立山町は、長い伝統をふまえながらも、未曽有の繁栄を誇っているようであります。百年ほど前には、一夏に約六千人の登拝者を迎えた立山は、今日では年間百万人におよぶ登山観光客を迎えています。そして山麓には、登山研究所や少年自然の家や、スキー場その他の近代的な施設がととのえられております。

また百年ほど前には、オランダ人工師のヨハネス・デ・レイケをして、「これは川ではない。まるで滝だ」となげかせた常願寺川は、累年の治山治水事業の推進によって、コントロールされ、いまでは洪水を起こす心配などは、ほとんどなくなっています。

そればかりではありません。川の扇状地に開けた新川の平野は、その隅々に至るまで圃場整備が行われています。三十年前までは、考えもおよばなかった広々とした田地では、機械化された近代的な農業が営まれて、ゆたかな収穫が期待されています。人びとの衣・食・住にも、著しい改善が加えられて、立山町は、みどりのなかの田園都市として、活力ある繁栄を示しております。

しかし、この平和と繁栄を、百年ののちまでも維持するには、どう考えたらよいのでしょうか。私どもは、いま立山町の歴史の概略をたどって上下二巻の本をつくらせていただきました。歴史は過去を語るのみですけれども、古くから温故知新・彰往考果ということばもあります。また、「歴史は過去を向いた予言者」ともいわれています。過去を研究し、過去の真実を鑑(かがみ)として、はじめて新たに来るべき将来を考えるこ

とができるという意味でありましょう。もしもこの上下二巻が、立山町の未来を考える上で、何ほどかのご参考になることができれば、それこそ私どもの望外のよろこびであります。

立山町は私にとって、父祖の地であります。なつかしいふるさとであります。古稀又四歳にして、おかげさまで立山町史の監修の任を終えることができました。重ねて御礼を申し上げ、立山町の将来のご発展をいのりつつ、筆をおく次第であります。

昭和五十八年十月八日

富山大学名誉教授　文学博士

例　言

一　本書は、立山町史上巻につづくもので、江戸時代から現代までの通史と文化・伝承関係の記述とを内容としている。なお別冊には立山曼荼羅絵図解説、方言の特色、伝説、民謡、わらべ唄、雅楽、文化財解説、戦没者名簿、小字名一覧表、年表をのせた。

一　近世は佐々成政の越中支配からはじまるとされるが、前田利家の越中支配までの記述がすでに『上巻』にのっているので、ここでは省略した。

一　『上巻』と重複する古文書は、つとめて記述をさけたが、内容の説明上再録したものもある。

一　『上巻』では章、節、項、目には番号をつけなかったが、下巻では内容が多岐にわたるため、編、章、節、項、目にわけ、目を除くすべてに番号をつけた。

一　本文の活字は九ポとし、一行五四字、一ページ一八行とした。引用史料は八ポで、原則として二段組とし、割注は六ポとした。

一　本文の記述はつとめて新字体による常用漢字、新かなづかいを採用したが、歴史的用語や名辞、引用文などには旧漢字も用いた。

一　特殊な用語や、難解な文字には、つとめてふりがなを付した。

一　数量を示す数字は、年月日や史料引用の場合を除いて、原則として十、百、千の文字は用いなかったが、便宜上万以上の場合は、例えば一万三千五百五十石は、一万三、五五〇石と記した。

一　挿図や表は、節ごとに通し番号をつけた。

立山町史 下巻 目次

口絵
刊行のことば
監修者のことば

第I編 近世の郷土

第一章 佐々成政と加賀藩……3

第一節 佐々成政の政策……3
(一) はじめに……3
(二) 成政の新しい施策……4
(三) 成政の知行分紀明……7
(四) 成政の越中統一……8
(五) 成政の与えた給人地……9
第二節 加賀藩の統治……10

(一) 利家の新川郡支配……10
利家の越中入国　利家の新川郡支配
(二) 越中瀬戸焼の勧奨とその後の発展……14
瀬戸焼以前　越中瀬戸焼のはじまり　小二郎に関する書状　初期の瀬戸焼窯
彦右衛門への下知状　孫九郎が瀬戸焼両人に与えた書状　孫市への書状
長八家・九左衛門家　壺の催促状　瀬戸焼の発展
(付) 越中瀬戸焼の復興
(三) 加賀藩と富山藩……41
(付) 加賀藩主略系図
(四) 改作法以前の支配体制……44
はじめに　翁家史料にみられる初期の支配体制
口米／蔵入地と給人地／新川郡の検地／村高と小作／小物成／夫銀／お城米／
寛永八年の定書／借米・借銀の調査
(五) 岩峅寺と芦峅寺の発展……62
加賀藩と岩峅寺・芦峅寺　岩峅寺と門前　岩峅寺村の所蔵　芦峅寺と門前
山廻り佐伯十三郎
(六) 室堂の経営……87
室堂の創建以前　室堂の建設　室堂の経営　山銭について
(七) 地獄谷の硫黄の搬出……93

(八) 立山温泉と岩峅寺衆徒……103
岩峅寺衆徒の開湯　温泉の管理を金山裁許に移管　潤色銀が七百目に減額される　安政五年の洪水と温泉の再開
(九) 新道をめぐる千垣と芦峅寺の争い……108
千垣と芦峅寺の争い
(〇) 立山信仰をめぐって……113
第三節　改作法下の村と農民……125
(一) 農村支配のしくみ……125
改作法　改作奉行　百姓助成策の確立　村御印の下付と十村
(付) 加賀藩の支配機構
改作奉行の役割
(二) 村御印と村々……134
村御印　村御印のある村々
東谷方面・上段方面／立山方面・釜ケ渕方面／大森方面・利田方面／高野方面・新川方面／下段方面・五百石方面
村の構造
肝煎・組合頭
皆済状
(三) 御蔵・蔵宿・所蔵・作食蔵他……161

御蔵　蔵宿　所蔵　作食蔵他　備荒倉
(四)十村制度……180
十村のおこり　十村の起請文　十村組の変遷　十村の役割と任務
行政／民事／産業／土木／徴税／民生／公安
十村の任務の月別分担
(五)その他の諸役……200
新田才許　山廻り役　蔭聞役　その他の兼役
(六)立山町域出身の十村……202
宮路岩峅村茂左衛門　利田村六郎右衛門　米道村儀右衛門
(七)立山町に関係の深い十村……205
仏生寺村徳兵衛／新堀村朽木家／町袋村平兵衛・平助／町新庄村庄左衛門／天正寺村十右衛門／水橋村勘左衛門・間右衛門／黒崎村安兵衛／石割村杉木家／神田村結城家
第四節　田地割制度と検地……214
(一)田地割の趣旨……214
検地
(二)町内の田地割……218
高原村の田地割　中野新村の田地割

(三) 天保高方仕法と田地割制……225
伊豆林村の田地割定書
第五節　加賀藩財政の衰退……229
(一) 藩政の衰退……229
(二) 加賀藩の財政……230
綱紀の政治　財政の衰退
(三) 藩の財政救済策……234
倹約令　御省略　新田開発　借知　御借銀
(四) 仕法調達銀の制度……237
役立による増収策
(五) 新川郡の海防負担……238
(六) 安政以後の財政……239
第六節　農民層の分解……241
(一) 村高の変遷とその特色……241
(二) 田畠永代売買禁止令とその矛盾……245
(三) 切高仕法と農民層の分解……246
(四) 一部の農民の成長……251

若宮新村次左衛門家　宮路岩峅村茂左衛門家
(五) 宝暦八年の御触……255
(六) 天保の高方仕法……257
(七) 百姓奉公人の不足……263
奉公人に関する高野組の定書　寛政年間の奉公人　立山町域の奉公人
幕末の奉公人事情

第二章　近世農村生活の展開……269

第一節　江戸初期の農村……269
(一) 正保三年の高付帳にみられる初期の農村……269
(二) 改作法にみられる農民……271
長百姓と百姓　村と給人の関係　町内の給人地　百姓と商業
(三) 百姓の生活……284
(四) 捨子禁止令と五人組……287
(五) 元禄九年の大飢饉……290
(六) 享保の古格復帰法……292
(七) 戸出村又右衛門の村回り……294
(八) 宝暦～天明間の農民……295

第二節　江戸後期の農村……298
(一)　凶作とその対策……298
杉木文書にみられる引免の記録
(二)　天明の飢饉……300
石割組の記録
(三)　地方記録にみられる飢饉の状態……306
天明の飢饉　天保七年の大凶作の節食物御触
(四)　その他の飢饉の際の食べ方……309
松葉団子の事　粉糟団子　粉糟味噌の法
(五)　天気順正五穀成就の祈願……311
(六)　生活の向上……312
(七)　風紀の取り締まり……316
第三節　安政の洪水……320
(一)　安政五年二月の大地震……320
大嵩の崩壊　岩峅寺衆徒の注進書
(二)　同年三月十日の泥洪水……328
岩峅寺衆徒の報告　新堀村朽木十村の報告　嶋組の報告　芦峅寺村仁右衛門の報告書

(三) 同年四月二十六日の泥洪水……339
天正寺（太田組）十次郎の報告　常願寺川右岸の氾濫　立山寺衆徒の拝借米の年賦願　岩峅寺前立社壇の災害　常願寺川左岸の状況
(四) 洪水後の調査……345
前後二回の洪水の被害　高野組地内の被害
(五) 藩の救済策……350
(付) 野村所蔵本による安政五年大地震・大洪水記録
第四節　開　拓……360
(一) 高原野の開拓……360
野方と郷方
郷方二一か村／野方一六か村
寛文の開拓とその後の論争　宝永十二年以後の争乱　文化の御仕法　嘉永の御仕法　開拓の完了
(二) 末三ケ野の開拓……372
末三ケ野境域の変遷　二か所の境界紛擾　入植の初期　文化の御仕法以後
嘉永三年の御仕法　安政の大洪水と三ケ屋作兵衛　高原野引揚と難民の移住
末三ケ野の細分と開拓の漸進
(付) 明治以後の開拓
神社の奉斎／用水の掘さく／古郷と新開との紛争

(三) 横江野の開拓……403
熊林村孫市の用水掘さく　横江野開の資金　宮路岩峅村の茂左衛門申請
横江野入植
(四) 引越しの村々……410
藩の移住勧奨　常願寺川の対岸から引越した人びと
手屋／宮成／本郷島／西芦原新／貫田／一本木／向新庄／日俣／大島／川原木（川原毛）
／田添／朝日新村（西大森に編入）／野村／古川
(五) 常願寺河原の開拓……428
東大森と馬瀬口の河原係争
第三章　用　水……437
第一節　用水管理の歴史……437
(一) 数多くの用水……437
(二) 灌漑水の取水方法……439
(三) 加賀藩の用水対策……440
(四) 用水の開さく年代と管理組織……444
江肝煎　上江組と下江組
(五) 干ばつ時の十村……447
(六) 水請高の変遷……448

(七) 各用水の水量割り……449
(八) 上川口の口分水……450
(九) 本流渇水時の対策……451
番水の歴史　干ばつ時における配水の四段階　番水記録の実例
第二節　常願寺川の諸用水……459
(一) 芦峅用水……459
(二) 中野用水……461
(三) 千垣・横江新用水……461
(四) 寺用水……462
(五) 吉原予備用水……462
(六) 上黒用水……464
(七) 秋ケ島用水……466
(八) 釜ケ渕用水……469
同用水の旧記／天明四年（一七八三）釜ケ渕用水々下銀仕立之覚／文久三年（一八六三）金沢藩御改作所よりの達し／慶応二年の定書／慶応四年の定書／分水の約定書／釜ケ渕用水入札者（安政元寅年四月十四日）
(九) 張子・五十石用水……477
(一〇) 新用水……478

(二) 日中用水……479
(三) 三千俵用水……480
(三) 仁右衛門用水……483
(四) 高野用水……486
(五) 大森用水……489
(六) 芋田用水……489
(七) 三郷・利田用水……490
第三節　白岩川流域の用水……491
(一) 白岩川の概観……491
享保十三年の災害　大正三年の大洪水　白岩ダムの建設　白岩川水系諸用水の沿革　村川用水の開削　四谷尾用水の開削　水田率の変遷　日中東用水の役割　災害と開拓　虫谷川上流の新開と用水　中蔵高用水と同下用水・長倉用水・嘉永（江）用水　長倉用水と阿閉家　中蔵高用水と大熊道三二ツ家用水・月野用水の開削　耕地整理組合と用水
(二) 用水の維持管理……512
白岩川水系用水の特色　谷口和田家の用水修理記録　長倉用水の修理　用水の維持管理費　土地私有制と用水の管理　昭和四十四年の豪雨　災害復旧工事　長倉集落の過疎化　谷口集落の用水費個別負担　用水維持費用の格差

(三) 四谷尾村諸用水……525
四谷尾用水　竹幅用水　相撲用水　出戸用水　善道用水　向田用水
宮造川用水　二の窪用水（別名仁乃公場）
(四) 日中村諸用水……528
日中東用水　和田善道用水　川原用水
(五) 下白岩村諸用水……528
鶯谷川用水　砂田用水
(六) 谷口村諸用水……529
宮の下用水　三斗無し用水　宗ケ田用水　上の山用水　畑直し用水
(七) 虫谷村諸用水……530
村川用水　向田用水　道々奥川用水　二ツ家用水（稲場平用水）　長四竹用水　大祖父用水（大用水・中用水・亀岩用水）
(八) 白岩村諸用水……531
上川原用水・前川原用水・下川原用水　元野丞用水　月野用水　藪の上用水
尾掛川用水　矢割用水　柿木平用水　宮の平用水　中蔵高用水・同下用水
(九) 芦見村諸用水……533
芦見用水　大正割用水　和田芦見用水
(一〇) 池田村諸用水……534
大黒用水　池田上用水　大曲割用水（耕地整理用水）　高峰用水

(二) 六郎谷村用水……535
六郎谷用水
(三) 目桑村諸用水……535
定林用水（宮谷川用水・東用水）　川原用水　嘉永用水（新用水・中尻用水）
二坂用水　奥山用水（目桑耕地整理組合用水）
(三) 谷村諸用水……536
堀田用水　堂村用水
(四) 伊勢屋村用水……537
下川原用水
(五) 小又村諸用水……537
下用水　上用水
(六) 松倉村諸用水……537
早稲田用水　鹿熊用水
(七) 座主坊村諸用水……538
南平用水（なんだら用水）　赤倉用水
(八) 長倉村用水……538
第四節　舟　運……539
(一) 白岩川の舟運……539

(二) 細川（白岩川支流）の舟運……543
(三) 八幡川（白岩川支流）の舟運……544

第Ⅱ編　明治・大正時代

第一章　政治の変遷……549

第一節　明治となって……549
(一) 米価の高騰……549
(二) 立山町と明治維新……550
維新の概要　維新当時の郷土の記録
(三) 王政復古と神仏判然令（神仏分離令）……553
神仏判然令とその影響　両峅寺衆徒の復飾　衆徒を東西社人に改称
衆徒の混乱　寄進米の取り消しと神職への給禄　檀家の離檀　旧衆徒の転宗
雄山神社となって
(四) 室堂の払い下げとその後の経営……560
払い下げに至るまで　払い下げ後の室堂の経営　室堂の売却
(付) 明治・大正時代の立山
(五) 士族の夢、立山新道……570
士族の困窮と授産事業　立山新道の計画　開通社と深見家

(六) 明治天皇の行幸……582
全国行幸　天皇の北陸巡幸
(七) 文明開化の風潮……585
立山町の文明開化　内国産業博と立山町
第二節　ばんどり騒動……589
(一) ばんどり騒動の意義……589
(二) ばんどり騒動研究史……589
日本農民史料聚粋（第六巻）　塚越ばんどり騒動　金沢藩ばんどり騒動に関する一考察　ばんどり騒動の研究をめぐって　明治二年越中ばんどり騒動について　ばんどり騒動（依田憙家）　ばんどり騒動（女川米次郎）
(三) 一揆の模様……593
(四) 騒動の原因……598
集会と諸要求　藩の政治機構の変化
御一新と公選要求
(五) 騒動の結末……605
(六) その後の忠次郎顕彰……607
第三節　自治の発展……611
(一) 町の成り立ち……611

藩から県へ　新川県時代　石川県時代　町・村の成り立ち　戸長制……631
(二) 富山県となって……665
富山県の分離独立　戸長から町村長へ　明治二十二年の町村合併　郡役所の職掌　郡制の開始　町の人口の推移　人口移動と近代化　市町村制以前の財政　五百石町条例
(三) 自治制度の確立……676
国会開設　町村議会　郡会　県会
(四) 民会と政党政治……686
自由民権運動　政党の結成
第四節　大正期の政治……686
(一) 大正デモクラシー……686
第一次護憲運動　尾崎・犬養の来県　大隈重信の来県
(二) 中新川郡の青年大会と学生大会……689
中新川郡青年大会の発足
中新川郡教育会役員／中新川郡青年大会会員名簿
中新川郡学生大会の開催
(三) 立山村長解職事件……693
事件の背景　金山従革と郡長との衝突
金山従革の辞表提出

金山従革　坂本郡長の名誉損毀問題　立山村役場の移転　郡役所と町村郡制の廃止
(四) 第一次世界大戦と民本主義……700
民本主義の普及　米騒動　産業発展の影響　米騒動の余波
婦女会連合会
普選運動の高まり　最初の普選
第二章　社　会・経　済……719
第一節　農村社会の変化……719
(一) 明治初期の実態……719
人別調帳による村の構成　村の相互監視の体制　近代化のいぶき　在郷商人の生成
(二) 地租改正下の農村……738
初年の土地所有の実態　地券の交付　地租改正の進捗　地価の算定　改正の完了と農民の抵抗　地租改正の影響
(三) 地主制の発達……756
農業振興政策　農会の設立
寺田村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
利田村農会

創立当時の状況／創立以来の変革と事業
大森村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
五百石町農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
高野村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
上段村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
東谷村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
下段村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
釜ケ渕村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
立山村農会
創立当時の状況／創立以来の変革と事業
中新川郡農会　大森産業組合　町内の各産業組合
(四) 地主層の動静……779
(五) 小作人の動静……782

小作争議
(六) 新しい農村の動き……784
農産改良会社創立願　地主層の他産業への参加　自作農創設　救恤策として
の義倉
第二節　町の産業と資本主義……799
(一) 農村生活の変遷……799
明治・大正時代の農民生活　農村振興のあゆみ
新開地／各種の研究会／肥料の改善／病害虫の駆除／畜力の改良／農具の改良／技術の
進歩／動力の利用／苗代の進歩
副業の進歩
藁工品／上段の養蚕／上段の製茶／横江の竹細工／東谷の炭焼
耕地整理と芦見用水
(二) 開拓の進展……820
岩峅野の開拓
野の払い下げ
岩峅野の入札
中野の開拓参加
払い下げの地代　開拓地所持者の変遷　開拓の進展
岩峅野用水の導入／その後の発展

(三) 商業の発展……829
新川銀行
新川銀行の設立／新川銀行の経営／水橋銀行への合併
民間の金融
頼母子講／質屋
産業組合
大森産業組合
(四) 交通・通信・運輸……837
五百石郵便局の開設　電信の開始　電話業務の開始　その他の郵便局
道路
全国道路網の整備／県道の整備／町村道（里道）
橋梁の架設
大日橋／新川橋（立山橋）
立山軽便鉄道
立山軽便鉄道の発足／滑川・五百石間の開通／岩峅寺への延長／富山県営電気／富山県営鉄道／鉄道の電化と統合／富山地方鉄道の発足／立山開発鉄道と立山ケーブル／立山黒部貫光
(五) 電力の開発と近代産業……858
機業の興隆　機業の衰退　立山製紙株式会社の発足　立山製紙の経営

大岩電気株式会社　大森村営電気
(六)　五百石町（松本開）の発展……868
松本開のはじまり　安政六年の松本開の諸商売　松本開の思い出
松本開の一本松／町の中央を通っていた五十石用水／天満社付近／遊廓／松山座／松山公園／五百石町の商業
第三章　町民の暮らし……879
第一節　教育の変遷……879
(一)　寺子屋……879
江戸時代の寺子屋　明治初年の寺子屋　寺子屋の学習
(二)　学制頒布とその後の発展……887
学制頒布　被仰出書の内容　学制頒布による小学校の設立
松本小学校／盛徳小学校／大森小学校／神田小学校／芦峅小学校／岩峅小学校／利田小学校／宮村小学校／寺田小学校／舟橋小学校／野町小学校／日中小学校／目桑小学校
明治十年の各小学校　上谷松次郎の思い出　明治十二年の布告　明治十九年の小学校令　教育に功労のあった人びと
(三)　教育熱の高まり（大正時代）……907
世界的飛躍　小学校教育の進展　自由主義教育の芽生え　産業教育研究発表　高等科・農業補習学校の設置状況　中学校の設立普及

第二節　生活の諸相……914
(一)　戦争とくらし……914
徴兵制　日清戦争　日露戦争
(二)　消防と治安……919
維新後の警務　警察制度の変遷　警察署の配置　司法　維新後の消防
五百石町消防組の変遷　その他の消防組
(三)　安政の洪水以後の常願寺川の治水……939
鳶山大くずれと常願寺川　安政五年（一八五八）以後の記録に現れた洪水
改修工事　デレーケの改修計画の概要
ヨハネス・デレーケ／西師意の治水論／常西合口用水（デレーケの献策による）／常西合口用水開削事業計画／同用水の追加工事
砂防工事　国直轄砂防になるまでの年譜　富山県による改修と防災事業の着手
国直轄砂防工事の年表　立山砂防と工事実施組織の変遷　砂防工事の一環としての水力電気事業　河川改修工事の一環としての合口用水事業
常西合口用水／常東合口用水／タワーエキスカベーター
(付)1　県営砂防工事視察記（大正五・六年）
(付)2　日本北アルプス横断記
(付)3　立山温泉遊記
(四)　明治時代における常願寺川の橋梁……985

立山橋／常願寺橋／大日橋／常盤橋／新川橋
(五) 大正・昭和時代の常願寺川の橋梁……988
今川橋／国鉄・鉄道橋／常願寺橋／常盤橋
富山地方鉄道・鉄道橋(一)　大日橋　立山橋　富山地方鉄道・鉄道橋(二)　豊水橋（水路橋）　瓶岩橋
(六) 災害と衛生……993
白岩川の氾濫と改修工事　近年における白岩川の水害　四十四年八月水害
火災　雪害　衛生
人生四〇年／藩政時代の医師／明治時代の医師／藩制時代の薬法／明治以後の開業医／伝染病の予防／コレラの発生状況／天然痘／寄生虫病
(付) 昭和五十六年度の立山町の保健衛生活動
予防について／保健センターについて（五十四年四月一日発足）／環境衛生について
(七) 社会教育……1024
青年団
青年夜学会／実業補習学校／青年訓練所／青年学校／青年団の結成／利田村青年団／五百石青年団／寺田村青年団／高野村青年団／東谷村青年団／上段村青年団／下段村青年団／釜ケ渕村青年団／立山村青年団／大森村青年団
婦人会
大森村婦女会／五百石婦人会／利田村婦人会／寺田村婦女会／高野村婦女会／東谷村婦

女会／日中上野婦女会／新瀬戸婦女会／下段村婦女会／釜ケ渕村婦女会／立山村婦女会／芦峅校下婦女会

第三節　種々の娯楽……1041

(一)　昔のおりめ（行事日の食事）……1041

(二)　農村の娯楽……1048

盤持ち　相撲　競馬　盆踊り　巫女・祭文かたり・浪花節　上末・若宮の楽隊

上末の楽隊／若宮の楽隊

第Ⅲ編　第二次世界大戦とその後の発展

第一章　第二次大戦前後と郷土……1063

第一節　不況から海外進出へ……1063

(一)　不況の深刻化……1063

世界恐慌　海外進出

(二)　恐慌下の農村……1066

深刻な農村の不況　北村盛農会　振興指定村

(三)　当時の立山町域……1074

電気争議と五百石町

五百石町の状況／電気争議の解決
千垣馬車ひき六〇名の罷業　上段の小作争議　県営鉄道の延長問題　立山登山の隆盛
登山人口の増加／スキーの一般化／道路・施設の整備／避難小屋の増設／政府の登山奨励
雄山神社国幣社昇格問題終始
雄山神社奉賛会の結成／雄山神社御昇格奉尽会
第二節　満州開拓団と郷土……1099
(一)　富山村と雄山神社……1099
(二)　大甸子新川開拓団……1102
移民の拡大　大甸子新川開拓団の成立
開拓団の生活／終戦と逃避／山口富美の話／立山町満蒙開拓団員名簿
(三)　有磯義勇隊開拓団……1109
満州開拓青少年義勇隊　有磯義勇隊開拓団の成立
勃利訓練所時代／朝陽へ入植／有磯義勇隊の参戦
第三節　新川村・雄山町の誕生……1118
(一)　町村規模適正化の前段階……1118
(二)　新川村の誕生……1119
(三)　先進地視察と合併案の見直し……1121

(四) 合併懇談会の申合せ……1122
(五) 関係町村の動静……1123
(六) 雄山町の誕生……1124
第四節 戦火のもとに……1127
(一) 国民生活の戦時体制化……1127
新体制運動（国民精神総動員運動） 国家総動員法 町民の衣・食
衣／食
深まる戦時体制
(二) 小学校から国民学校へ……1132
不況と就学 郷土教育の隆盛 尊徳像と奉安殿 風雪下の昭和教育 国民学校令 決戦下の教育
(三) 学童疎開……1137
学童集団疎開
立山町における学童集団疎開
第五節 戦後の混乱……1144
(一) 昭和二十年晩夏……1144
(二) 戦災処理……1146
(三) 占領軍の進駐……1149

(四) 戦没者と戦傷病者……1154
戦没者について　戦傷病者について
(五) 復員と引き揚げ……1159
(六) シベリヤ俘虜の手記……1163
(七) 満蒙開拓団と中国残留の人びと……1166
(八) 戦後生活の諸相……1168
食　衣　住　教育　風俗
(九) 新生日本への胎動……1183
第二章　立山町の誕生……1187
第一節　立山町の誕生まで……1187
(一) 戦後における市町村の窮状……1187
(二) 町村合併促進法……1188
(三) 雄山町区域合併研究会の開催……1188
(四) 新川村・立山村の窮状……1189
(五) 雄山区域町村合併促進協議会の歩み……1191
(六) 新町名選定の理由……1193
(七) 立山町の位置および地形……1193
(八) 町章の制定……1194

町章の意義

第二節　新川村の編入……1195

㈠　合併前の各町村の概要……1195

利田地区　雄山地区　上段地区　東谷地区　釜ケ渕地区　立山地区

㈡　旧町村役場の沿革並びに歴代町村長名……1197

五百石町　大森村　高野村　下段村　雄山町　寺田村　弓庄村

新川村　利田村　上段村　東谷村　釜ケ淵村　立山村

㈢　新川村の編入……1216

新川村編入による付帯案件措置　旧新川村の一部境界変更

第三節　町庁およびその他の庁舎など……1220

㈠　旧庁舎と新庁舎……1220

㈡　その他の庁舎など……1223

町民会館　戦前の消防機関　立山町消防団　消防組織の再編成　消防署

立山町防災会議　豪雪と殉職

第四節　新しい町政……1232

㈠　健全財政への努力……1232

㈡　犬山市と姉妹都市成立……1234

㈢　歴代町長と助役……1236

(四) 議会議員定数の推移……1237
(五) 歴代議会議長および副議長……1238

第三章　新しい社会と産業・交通……1241

第一節　新しい農村……1241

(一) 農地改革……1241
自作農創設　小作料金公定化　地価価格の公定化　市町村農地委員会の構成
農地の売渡し・賃貸の制限

(二) ほ場整備の概要……1243
ほ場整備の推移　ほ場整備の特色　幹線排水路の整理　ほ場整備の影響

(三) 農業組合の変遷……1253
農業団体の発展　町村産業組合の成立　大森信用購買販売組合の設立　組合の破綻　その後の大森組合　大森産業組合の再設立とその後の変遷　農業協同組合の発足

(四) 農協合併の推進……1258
第一次合併促進期　第二次合併促進期

(五) 立山町農業協同組合の誕生……1261

(六) 釜ケ渕農業協同組合の歩み……1264

(七) 新川農業協同組合……1267

(八) 下段農業協同組合の歩み……1269
下段農協の合併
(九) 立山町農業協同組合に合併した旧町村の組合長名……1271
大森農業協同組合　高野農業協同組合　上段農業協同組合　五百石農業協同組合　利田農業協同組合　東谷農業協同組合　立山農業協同組合
第二節　戦後の産業……1277
(一) 黒部第四発電所の開発……1277
当初の開発計画　計画の変更と調査　建設の決定と法の規制　境界問題の惹起　針ノ木トンネルと目的外使用　黒四ダム　地下式発電所
(二) 商工業の発展……1281
終戦直後の経済不況　商業の中心地としての五百石　商業の現況　商工会の活動　商店経営診断（その一）　商店経営診断（その二）・勧告　診断の活用と歩み　最近の商業と立山町
(三) 工業の発展……1289
工業に恵まれない立地条件　上末のかわら工場　新産業都市区域に加入　工場誘致と進出工業
第三節　交通・通信機関の変遷……1305
(一) 鉄道から自動車へ……1305

立山町の鉄道　乗合バス路線　自家用車の増加　鉄道ならびにバス利用者の推移　自動車の増加と社会的影響……1310
(二) 道路の拡張整備……1321
立山町誕生当時の道路・橋梁　目覚ましい道路・橋梁の改良　大日橋／立山橋／藤橋／芳見橋／瓶岩橋／真川大橋
都市計画道路について　農免道路・高速道路・その他
(三) 通信機関の変遷……1324
郵便局　電信・電話
第四節　人口の変遷……1324
(一) 戦後の人口増加……1328
立山町誕生前の地区人口　三万人を目指して
(二) 人口の都市集中と僻地の過疎化……1333
恵まれない農山村の過疎化　立山町の実態　過疎化防止のための国および県の対策　立山町の林業構造改善事業
第五節　新しい社会事業……1334
(一) 一般社会福祉事業……1334
(二) 老人福祉事業……1335
(三) 身障者対策事業……

(四) 児童福祉事業……1335
(五) その他の社会事業……1337

第四章 新しい教育……1339

第一節 新しい教育制度……1339
(一) 教育制度の発展……1339
(二) 国民学校から小学校へ……1343
進駐軍の巡視　教育基本法と学校教育法
(三) 新制度下の各小学校……1347
立山北部小学校　立山中央小学校　高野小学校　利田小学校　日中上野小学校　新瀬戸小学校　東峯小学校（旧目桑小学校）　谷口小学校　釜ケ渕小学校　立山小学校　立山芦峅小学校
(四) 旧小学校のおもかげ……1364
旧五百石小学校　旧下段小学校　旧大森小学校　旧新川東部小学校　旧新川西部小学校
(五) 新制中学校……1368
雄山中学校　上東中学校
(六) 新制高等学校……1373

雄山高等学校
(七) P T A……1376
第二節　社会教育の発展……1388
(一) 公　民　館……1388
五百石公民館　下段公民館　高野公民館　大森公民館　利田公民館
日中上野公民館　新瀬戸公民館　谷口公民館　東峯公民館　釜ケ渕公民館
岩峅公民館　千垣公民館　芦峅公民館　新川公民館　中央公民館
(二) 青年団・婦人会・老人クラブ……1394
青年団　婦人会
立山町連合婦人会／連合婦人会の行事
婦人学級　老人クラブ―高齢者学級―
(三) 社　会　教　育……1411
体育協会
勤労者体育館／勤労青少年ホーム／町営サッカー場／町営中央プール／町営下段プール
／町営高野プール／町営弓道場／公立学校開放
(四) 図　書　館……1413

第五章　立山の開発と平野部の観光……1415

第一節　立山登山の変遷……1415

(一)　宗教登山……1415

(二)　アルピニストのメッカ……1417

登山道の発展　外人の立山登山

(付)　外人と立山信仰について

(三)　近代登山の開拓者たち……1422

佐伯平蔵　佐伯宗作　南極越冬観測隊員に芦峅ガイド

(四)　立山遭難の歴史……1428

近代化以前の遭難　多様化する遭難　松尾峠厳冬の遭難　剣沢の遭難

遭難防止対策

(五)　新しい立山登山……1433

開発計画の産ぶ声　立山観光ルートの完成　観光登山客の飛躍的増大　観光

開発と対策

第二節　平野部の観光……1442

(一)　観光資源の見なおし……1442

(二)　主な観光地……1443

岩室の滝・大観峰・白岩ダム　稚児塚古墳と二ツ塚遺跡　雄山神社前立社

第Ⅳ編　文化・伝承・民俗芸能

第一章　伝承による村々のおこり

第一節　新川方面……1459
(一)浦田……1459
(二)高木……1462
(三)竹鼻新……1463
(四)泉……1464
(五)若宮……1465
(六)寺田（旧寺田極楽寺）……1466
(七)若林……1467
(八)稚児塚（旧極楽寺新）……1468
(九)二ッ塚（旧二ッ塚新）……1469
(一〇)沢端（旧沢端新）……1469
(一一)辻……1470
(一二)女川新……1471
第二節　五百石方面……1473

(一) 五百石（松本開）……1473
(二) 前沢（前沢新）……1475
菰原　草野
(三) 野口（野口新村）……1477
道新（上野口）　松原（下野口）　出合（下野口）　大石原（上野口）
貫田
(四) 大窪（大窪新）……1480
第三節　高野方面……1481
(一) 高原……1481
(二) 横江（旧横江新）……1483
(三) 福来（旧福来新）……1484
(四) 東野（旧東野新）……1484
(五) 下新……1485
(六) 竹林……1486
(七) 野町……1487
(八) 江崎（旧江崎新）……1488
(九) 米沢（旧米沢新）……1489
(一〇) 沢新……1491

(二) 金剛新（旧下金剛寺新）……1491
(三) 渕上（旧渕上新）……1492
第四節 下段方面……1493
(一) 榎（旧榎新）……1493
榎町
(二) 坂井沢……1495
中新村
(三) 上金剛寺……1497
末若林　末野田
(四) 金剛寺（旧下金剛寺）……1498
(五) 大窪開（旧東大窪開村）……1498
第五節 利田方面……1499
(一) 浅生……1499
(二) 塚越……1501
石田新
(三) 鉾ノ木（旧上鉾ノ木・下鉾ノ木）……1502
上鉾ノ木　下鉾ノ木
(四) 曽我……1503

石田　西芦原
(五)利田……1505
粟原　総曲輪　下利田　金屋　上利田
(六)横沢……1508
(七)五郎丸……1508
(八)日水……1510
(九)横田（旧横田新）……1511
(一〇)立泉寺……1511
(一一)上開発……1513
(一二)上野……1513
(一三)日置……1514
第六節　大森方面……1515
(一)蔵本新……1515
(二)半屋……1517
(三)大清水（旧高荒屋）……1518
(四)高原八ッ屋……1519
(五)西大森……1520
(六)三ッ塚新……1522

(七) 東大森……1523
(八) 泊新……1524

江戸時代の巡検使道

第七節 上段方面……1525
(一) 池田……1526
(二) 上末……1530
(三) 瀬戸……1531
上瀬戸　中瀬戸　下瀬戸　新瀬戸　瀬戸新
(四) 芦見……1535
(五) 下沢……1536
(六) 中林（旧中林新）……1537
(七) 上宮（旧宮村）……1538
(八) 小林……1538
(九) 末上野……1539
(〇) 石坂……1539
(一) 長屋……1540
(二) 上中（旧中村）……1540
(三) 福田……1542

(四)下白岩……1543
(五)日中上野……1543
(六)柴山……1544
(七)日中……1545
藤塚
(八)野沢（旧野沢新）……1547
第八節　東谷方面……1548
(一)座主坊……1548
(二)城前……1550
(三)松倉……1552
(四)長倉……1552
(五)小又……1554
(六)目桑……1555
(七)伊勢屋……1556
(八)六郎谷……1556
(九)谷……1557
(一〇)白岩（旧上白岩）……1558
(一一)中蔵……1561

(二)虫谷……1562
(三)谷口……1563
(四)四谷尾……1564
第九節　釜ケ渕方面……1565
(一)米道……1567
(二)谷口（旧末谷口）……1569
(三)道源寺……1570
(四)寺坪（旧寺坪新）……1571
(五)鋳物師沢……1572
(六)中山（旧中山新）……1573
(七)野村（旧引越新庄野）……1574
(八)末三賀（末三ケ野）……1576
第十節　立山方面……1580
(一)岩峅野……1580
(二)下田……1583
(三)伊豆林……1584
(四)吉峰野開……1584
(五)岩峅寺……1586

(六) 宮路（旧宮路岩峠）……1589
(七) 栃津……1592
(八) 座主坊新……1593
(九) 東中野新……1595
(一〇) 天林……1596
(一一) 横江野開……1597
(一二) 横江……1598
(一三) 千垣……1599
(一四) 芦峠寺……1601
(一五) 千寿ケ原……1603

第二章 郷土の先賢……1605

第一節 六郎谷の翁家……1605
(一) 翁源指……1605
(二) 翁久允……1606

第二節 明治の政治家……1607
(一) 金山従革……1607
(二) 坂井喜一郎……1610
(三) 酒井小平……1612

第三節　画　家……1614
(一)谷口藹山……1614
(二)北村勝山……1618
(三)十松立昭……1619
第四節　農業技術……1620
(一)北村米吉……1620
(二)高田庄蔵……1622
第五節　学　者……1625
(一)橘　有鄰……1625
(二)佐伯有義……1627
第六節　大正・昭和時代の実業家・教育者……1632
(一)佐伯宗義……1632
(二)増田永修……1640
第三章　神社と寺院……1643
第一節　神　社……1643
(一)概　説……1643
(二)五百石方面……1646

五百石　天満社／五百石　稲荷神社／前沢　神明宮（大祖里宮）／下野口　神明宮／道新（上野口）神明社／前沢　神明宮／中前沢（草野・大石原）神明宮／大窪　神明社／西芦原　神明宮／本郷島　白山社

(三)
下段方面……1654

上金剛寺　八幡社／金剛寺　神明社／下段　神明社／坂井沢　神明社／榎　神明社／大島　神明社／日俣　神明社／川原木　神明宮／一本木　諏訪社／向新庄　白山社／大窪開　八幡社／貫田　神明社／古川　神明宮

(四)
高野方面……1658

野町　神明社／江崎　神明社／上米沢　水神社／沢新　神明社／金剛新　神明神社／東野　神明宮／上福来　神明社／下福来　神明社／横江　天満宮／竹林　神明宮／高原　天満宮／下新　神明社

(五)
大森方面……1664

西大森　天満宮／三ツ塚新　神明社／高原八ツ屋　神明宮／泊新　神明宮／東大森　八幡宮／大清水　神明社／蔵本新　神明社／半屋　神明社

(六)
利田方面……1671

利田　日吉神社／日置　日置神社／上野　素盞嗚社／立泉寺　立泉神社／日水　春日神社／五郎丸　焼ノ爪社／横沢　神明社／塚越　八幡社／浅生　浅生神社／下鉾ノ木　二上神社／曽我　神明社

(七)
上段方面……1680

上末　八幡社／小林・末上野　日枝社／中林　加茂社／下沢　日枝社／芦見　天満宮／上瀬

戸 神明社／下瀬戸 天満社／池田 神明社／上宮 上宮神社／日中 日置神社／日中上野 神明社／下白岩 八幡社／野沢 神明社／福田 神明社／上中 神明社／石坂 日吉社／柴山 神明社

(八) 東谷方面……1691

四谷尾 神明社／谷口 八幡宮／白岩 八幡宮／六郎谷 八幡社／虫谷 八幡社／谷 神明社・八幡社／長倉 刀尾社／伊勢屋 神明社／小又 神明社／松倉 八幡社／目桑 目桑神社／座主坊 刀尾社／旧城前 雄山神社

(九) 釜ケ渕方面……1702

中山 八幡宮／鋳物師沢 八幡宮／谷口 八幡宮／米道 白山社／道源寺 神明宮／上野村 天満社／寺坪 神明社／末三賀 神明宮／下野村 神明宮

(一〇) 立山方面……1707

岩峅寺 雄山神社前立社壇／岩峅野 事比羅社／宮路 神明宮／下田 白山社／吉峰野開 吉峰神社／栃津 熊野神社／横江野開 日吉社／旧座主坊新 神明宮／東中野新 神明宮／横江 蔵王社／千垣 白山社／千垣 大桑社／芦峅寺 雄山神社祈願殿／立山多賀宮／芦峅寺 志鷹神社／芦峅寺 立山神社

雄山神社峰本社と棟札

岩峅寺古文書に見られる峰本社再建の記録

(一一) 新川方面……1730

浦田 山王神社／稚子塚 稚児社（蛭子社）／寺田 神明社／泉 弓庄郷神社／沢端 神明社／若宮 若宮社／辻 八幡社／二ツ塚 神明社／田添 神明社／上女川新 神明社／女川新 神明社／竹鼻新 神明社

(三) 江戸時代・明治時代の神社……1740
天明五年の神社名　明治七年の神社名　明治十六年の県社・村社一覧表
第二節　寺　院……1746
(一) 五百石方面……1746
桑谷山 専徳寺／白雲山 信了寺／松本山 正源寺／清水山 報光寺／祥雲山 龍光寺／智月尼寺（旧智月庵）
(二) 下段方面……1752
願成寺／常念寺
(三) 高野方面……1753
順正寺／光蓮寺／正楽寺／光明寺／照光寺／禅証寺（旧治明庵）／桂林寺（旧金剛庵）
(四) 大森方面……1759
徳成寺／信行寺／永昌寺／円覚寺／成正霊王
(五) 利田方面……1763
宝永寺／慶哉寺
(六) 上段方面……1764
満法寺／日置寺／西光寺／願船寺／延命尼寺（旧延命庵）／三十番神堂／熊川寺／白雲寺
(七) 東谷方面……1770
極楽寺／本誓寺／正恩寺／安楽寺／如来寺

(八) 釜ケ渕方面……1776
善入寺／清照尼寺／浄信寺
(九) 立山方面……1778
地蔵院／祐教寺／立山寺／親鸞上人分骨所
(一〇) 新川方面……1782
照名寺／端盛寺／正覚寺
(二) 江戸時代の寺院……1784
第四章　文学にあらわれた立山……1789
第一節　江戸時代以前の文学……1789
第二節　近代文学と立山……1792
(一) 立山の短歌……1793
(二) 立山の俳句……1796
第三節　立山町内の歌碑と句碑……1797
第四節　町に芽生えた詩歌の流れ……1806
(一) 詩歌の芽生え……1806
(二) 句会と句誌……1807
みなかみ社　みどり句会　俳句同好会　あかね句会　ゼロ句会　辛夷
川柳
(三) 前句（舞句）……1814

呉西の舞句
新川地方での舞句／前句の作り方
(四) 短　歌……1822
新聞歌壇と町内の歌人　戦後の町の歌人と歌誌
(五) 立山町の詩人（近代詩）たち……1834
第五節　立山町内における詩歌人と出版物……1837
第六節　立山町芸術文化協会……1839
第五章　民家のうつりかわり……1841
第一節　江戸時代およびその以前の民家……1841
(一) 江戸時代以前の民家……1841
(二) 加賀藩の農民住居の対策……1843
第二節　近世農家の間取り……1844
(一) 構造の特色……1847
(二) 町通りの古い民家……1848
(三) 芦峅寺坊家の建物……1850
(四) 現代の住宅の変化……1851
あとがき……1853